

近現代史(6)「ウィーン体制」

○今回のポイント

ウィーン体制は保守反動体制をとり、各地の自由主義やナショナリズムを弾圧したが、二月革命の余波で崩壊した。

1) ウィーン会議 「会議はおどる、されど進まず」 ⇒ ナポレオンの百日天下で妥協が成立

- (1)オーストリア外相(議長)の【① メッテルニヒ】が列強間の勢力均衡
 (2)敗戦国フランスの外相タレイランが提唱した【② 正統主義】を採用。
 ・フランス革命以前の領土や主権を正統なものとし、それを復帰させる原則。
 ・旧神聖ローマ帝国は復活せず。オーストリア=ハプスブルク家を盟主とする【③ ドイツ連邦】が成立
 ※このドイツ連邦は 35 の君主国と 4 自由市で構成された国家連合であり統一された国民国家ではない
 (3)ウィーン議定書…ナポレオン戦争以後の領土調整

イギリス	蘭から【④ <u>ケープ植民地</u> 】・セイロン島を獲得。マルタ島を領有。
オランダ	ケープ植民地を喪失した代償に【⑤ <u>南ネーデルラント</u> 】獲得
オーストリア	南ネーデルラントを喪失した代償に【⑥ <u>ロンバルディア・ヴェネチア</u> 】獲得
プロイセン	【⑦ <u>ラインラント</u> 】(ライン川左岸；産業革命の中心地)を獲得
ロシア	ポーランドにロシア皇帝を王とする【⑧ <u>ポーランド立憲王国</u> 】が成立する。
フランス	【⑨ <u>ブルボン家</u> 】が復活してルイ 18 世が即位。
スイス	【⑩ <u>永世中立国</u> 】として承認される。

2) ウィーン体制 オーストリア宰相【⑪ メッテルニヒ】

- (1)ウィーン会議で成立し、1848 年の革命で崩壊した【⑫ 保守・反動体制】
 (2)神聖同盟・四国同盟(⇒後、フランスが参加し五国同盟)が支柱

⑬ 神聖同盟	ロシア皇帝アレクサンドル 1 世が提唱。キリスト教的友愛で君主同士が協力。 全ヨーロッパの君主(除；イギリス、トルコ、ローマ教皇)が参加。
⑭ 四国同盟	対仏大同盟の主力(英・普・墺・露)の軍事同盟。革命の防止・紛争の終止をはかる 後にフランスも参加するが、イギリスは早期に離脱。

(3)ウィーン体制に反対する自由主義・ナショナリズムを弾圧

鎮圧された各国の自由主義・ナショナリズム		
独	⑮ ブルシェンシャフト	ドイツの学生組合。宗教改革 300 周年祭典で頂点に達するがカールスバート決議により解散させられ、思想統制。
伊	⑯ カルボナリ	炭焼党。イタリアの独立と統一、自由主義的改革を目的として武装蜂起をするが鎮圧される。
西	⑰ リェーゴ (人名)	立憲革命。国王フェルナンド 7 世に憲法制定を承認させたが鎮圧される
露	⑱ デカブリスト	青年貴族将校たちが自国の後進性を痛感して憲法制定・農奴制廃止・ツァーリズム敗死を要求するがニコライ 1 世に鎮圧される。

3) ウィーン体制の動揺

(1) ラテン=アメリカの独立 (1810年代～)

○独立運動の特徴

背景	フランス軍の侵入で宗主国(スペイン・ポルトガル)崩壊
独立運動の主役	[19] クリオーリョ](植民地生まれの白人で大地主)
神聖同盟の態度	メッテルニヒが派兵計画
独立運動の味方	イギリス[20] <u>カニング外交</u>]…ラテン=アメリカをイギリス工業の市場へ アメリカ[21] <u>モンロー主義</u>]…ヨーロッパと新大陸の相互不干渉を主張!

[22] トゥサン=ルヴェル=チュール	ハイティ独立運動の指導者。「黒いジャコバン」と呼ばれ独立に導いた。
[23] シモン=ボリバル	ベネズエラ・エクアドル・ボリビアの独立運動を指導。
[24] サン=マルティン	アルゼンチン・チリ・ペルーの独立運動を指導。
[25] イダルゴ	メキシコの独立運動を指導したのち、処刑される。
ブラジル独立…ナポレオン軍がポルトガルに侵入すると王室はブラジルに退避。ナポレオン失脚後、王室はヨーロッパに戻るが王子は残留して独立した。	

(2) [26] ギリシャ独立戦争](1821～29)

ナショナリズムが昂揚したギリシャで、支配者としてのオスマン=トルコに対して独立運動	
神聖同盟	正統主義の方針でギリシャ独立反対を決議 ⇒しかしメッテルニヒは鎮圧に派兵せず
独立賛成	英仏露 ⇒[27] <u>ナヴァリノの海戦</u>]でトルコ・エジプトを撃破
知識人	○ギリシャはヨーロッパ文化のふるさと意識 ・[28] <u>バイロン</u>]…熱情詩人。義勇兵として参加し、現地で病死。 ・[29] <u>ドラクロワ</u>]…「キオス島の虐殺」でトルコによるギリシャ人抑圧に抗議
結果	○[30] <u>ロンドン会議</u>]で国際的承認。ロシアは[31] <u>アドリアノーブル条約</u>]で黒海とボスフォラス・ダーダネルス海峡の自由通行権を獲得

(3) [31] 七月革命] (1930)

原因	ウィーン会議で復活したブルボン朝第2代[32] <u>シャルル10世</u>]の反動政治
結果	パリ市民反乱、復古王政崩壊⇒オルレアン家のルイ=フィリップ即位([33] <u>七月王政</u>)
影響	オランダから[34] <u>ベルギー</u>]が独立。正統主義の理念崩壊

4) ウィーン体制の崩壊

(1) [35] 二月革命](1848)

七月王政を打倒し、[36] 第二共和制]を樹立した革命。七月王政下の極端な制限選挙で銀行家が議席を独占。産業資本家や労働者は選挙法改正を求めるも、ギゾー内閣がパリの改革宴会を禁止。そのため労働者・学生・中小資本家による暴動が発生した。ギゾーが辞職し、ルイ=フィリップがイギリスに亡命して、七月王政は倒れ、第二共和制が成立した。二月革命の影響は全ヨーロッパに波及してウィーン体制は崩壊した。

(2) [36] 1848年の革命]の意義

- ・i) [37] 三月革命]でメッテルニヒが失脚・亡命してウィーン体制が最終的に崩壊。
- ・ii) [38] 労働者]が政治世界に登場して社会変革を指向、産業資本家との対立が深刻化した。
- ・iii) 各国の [39] ナショナリズム]や [40] 自由主義運動]を昂揚させ西欧と東欧の相違が顕在化。